

平成27年度 事業計画書

自 平成27年4月 1日

至 平成28年3月31日

平成27年度 基本方針

創立110周年！愛と汗の原点を見据え 心ひとつに進めよう“幸せの種まき運動”

明治39年2月11日東京府師範学校において蓮沼門三を中心とした学生達によって旗揚げされた修養団は幾多の苦難を乗り越えて、平成28年2月11日に創立110周年を迎えることとなりました。

この110年間、修養団は変わることなく、全ての人が愛と汗を実践して「総親和・総努力・総幸福」の明るい世界を実現させることを願って“愛汗運動”を展開して参りました。

創立110周年を迎える平成27年度は、この“愛と汗”という修養団運動の原点をしっかりと見据え、創立90周年以来続けている「こんにちは！」という“ふれあいの種”、「どうぞ」という“思いやりの種”、「ありがとう」という“よろこびの種”の三つの幸せの種を一粒でも多く自分の周りに、そして社会にまいていこうという“幸せの種まき運動”がより大きなムーブメントとなるように継続して実施していきます。

自分の家庭に、地域に、学校や職場にそして世界に“幸せの花”が咲き誇ることを願って、今年度も役職員、会員同志そして関連団体・機関と心をひとつに、手を取り合って“幸せの種まき運動”を進めて参ります。

I. 青少年活動

※子どもゆめ基金は申請中です。

日本の未来を担い将来を築く青少年が、健康な身体を養い豊かな感性と高い徳性を磨き、有為な青年に成長することを目的に、基本理念である“愛と汗”の精神に基づいた、自然体験・社会奉仕体験を中心とした青少年育成活動の充実を図る。愛と汗の実践活動として、フィリピン・ゴミ山などの貧困の中で暮らす子どもたちへの支援活動や東日本大震災などの被災者に対する支援活動を継続して展開する。

1. 子ども自然体験活動

“愛と汗”の精神に基づいた子ども自然体験キャンプを全国的に開催し、大自然の中で障がい児を含む異年齢の仲間とともに野営による共同生活をとおして、様々な課題や困難を乗り越え、自主性、協調性、感受性等を育てるなど、次代を担う青少年の心豊かな人間形成を図る。

(1) 修養団創立110周年記念「夏期子ども自然体験キャンプ」

ア. 子どもゆめ基金助成活動「子ども自然体験キャンプ」《文部科学省後援》

期 日 8月 <各3泊4日>
開 催 数 4会場（あっさぶ・桧原湖畔・いばらき・沖縄）
*桧原湖畔・沖縄キャンプは障がい児を招待。
スタッフ等 各会場スタッフ10名、リーダー15～25名
対 象 小学1年生～中学3年生の児童生徒
募集人員 各50～80名

イ. SYD主催「子ども自然体験キャンプ」

期 日 8月 <各3泊4日>
開 催 数 3会場（富士山・関西・瀬戸内海）
スタッフ等 各会場スタッフ10名、リーダー20～25名
対 象 小学1年生～中学3年生の児童生徒
募集人員 各70～100名

ウ. 創立110周年記念「沖縄キャンプの旅」

期 日 8月6日（木）～13日（木） <7泊8日間>
開 催 地 沖縄県下、渡嘉敷島など
スタッフ等 2名
募集人員 リーダー： 3名（高校生以上の青年）
参 加 者： 12名（小学1年生～中学3年生の児童生徒）

エ. 連合会等組織共催「子ども自然体験キャンプ」

期 日 7月下旬～8月 <各3泊4日～4泊5日>
開 催 数 6～7会場（美幌・房総・岐阜・広島・山口・北部九州・鹿児島）
スタッフ等 各会場スタッフ8～10名、リーダー20～30名
対 象 小学1年生～中学3年生の児童生徒
募集人員 各50名～100名

オ. キャンプ事前調査《子どもゆめ基金助成活動》

期 日 6月～7月 <各2泊3日>
開 催 数 4会場
派遣講師 各1～2名

カ. 印刷物の作成

①子ども自然体験キャンプリーフレットの作成《子どもゆめ基金助成活動》

部 数 20,000部
体 裁 A3版、4色刷り

②子ども自然体験キャンプ報告書の作成

部 数 1,200部
体 裁 A4版、80頁

(2) 冬期子ども自然体験キャンプ

ア. 冬期子ども自然体験スキーキャンプ

開 催 数 2回(12月、3月) <各4泊5日>
会 場 ばんだいふれあいぴあ、裏磐梯スキー場
スタッフ等 スキー指導員各2名、SYD指導者各3名(事務担当者含)、
募集人員 リーダー 各18名(高校生・大学生)
キャンパー各40名(小学1年生～中学3年生)

イ. 報告書の作成

部 数 300部
体 裁 A4版、40頁

(3) 夏期少年少女合宿講習会(青年会議所との共催事業)

開 催 数 3回(7月～8月) <各2泊3日>
会 場 伊勢青少年研修センター
対 象 小学生
定 員 各100名
予定団体 (一社)伊勢青年会議所、(公社)岸和田青年会議所、(一財)日本教育再生機構
大阪茨木支部

(4) 40kmナイトウォークの集い

開 催 数 1回(9月)
会 場 伊勢青少年研修センター他
対 象 小学3年生以上の子供・一般
定 員 100名
内 容 40kmの夜間歩行

2. 子どもボランティア活動推進事業

(1) 東日本大震災仮設住宅訪問青少年ふれあいボランティア

ア. 東日本大震災仮設住宅訪問青少年ふれあいボランティア

《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

中学生・高校生が中心となって被災者の暮らす仮設住宅を訪問し、手作りのカレーやコーヒ一等を提供するなかで、協力し合い、話し合い、喜びを分かち合う活動を行う。またゲームや遊びを行い、子どもたちの歓声が聞こえるようなふれあい活動を行う。このことにより、青少年がボランティア活動の真の喜びを体感し、自ら考え・行動する力を育むことを目的に実施する。

開催数 年6回（3連休や期間休みに実施）＜各2泊3日＞

開催地 ばんだいふれあいぴあ、震災被災者仮設住宅（宮城県石巻市・名取市等）

対象 真に被災者のことを考え行動できる青少年

募集人員 各回共リーダー 3名（大学生等青年）

参加者 18名（中学生～高校生）

イ. 東日本大震災仮設住宅訪問ふれあいボランティア（組織との共催）

開催数 年2～3回（春、秋）＜各2泊3日＞

開催地 ばんだいふれあいぴあ、震災被災者仮設住宅（宮城県、福島県）

共催 よよぎっこ倶楽部等

対象 真に被災者のことを考え行動できる人

募集人員 各10～15名

(2) 幸せの種まきキャンペーン《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

地域、学校（生徒会・ボランティア部）、PTA等と連携を図り、これまで実践しているフィリピン等での支援活動を紹介するなど、ストリートチルドレンやスカベンジャーなど「貧困と共に生きる子どもたち」の現状を理解する機会を提供する。このことにより、ボランティア精神を涵養し、他者への思いやり、命の大切さ、親や周りの人への感謝など、“青少年の豊かな心”を育むことを目的として全国的に開催する。

ア. 幸せの種まきキャンペーン「出前講座・課外授業」の実施

期 日 通年

開催数 全国60～70会場

実施組織 学校（生徒会、ボランティア部・JRC等のクラブ、学童保育等）、市町村教育委員会・公民館、PTA・子ども会など各種団体・グループ、SYD連合会等組織

派遣講師 各2～3名（SYD講師及びフィリピンでのボランティア経験者）

実施概要 (1)参加者 15名以上

(2)プログラム 90分(標準) 他

イ. パンフレットの作成・配布

部 数 14,000部

体 裁 A4版、8頁、4色刷り

配布先 14,000ヵ所

(3) 子ども週末WAKUWAKU広場《子どもゆめ基金助成活動》

自然体験活動や社会奉仕体験活動を実践している高校生・大学生等の青年指導者が集い、専門家や実践者を講師に招き、さまざまな体験活動やその展開方法についての学習をするとともに、新たな視点に立って展開する週末体験活動を模索し、子どもの週末体験活動を実践する。

ア. WAKUWAKU広場リーダー推進会議

開催数 全国15会場（各1日～1泊2日）
期 日 5月～平成28年3月
指導者 各2名（SYD講師1名、専門指導者1名）
募集人員 各15～20名（中学生、高校生、大学生等のリーダーを目指す青少年）

イ. 子どもWAKUWAKU広場実践活動

開催数 全国10会場（各1日～1泊2日）
期 日 5月～平成28年3月
指導者 各2名（SYD講師1名、専門指導者1名）
リーダー 各5名（高校生以上の青年に委嘱する）
募集人員 各20～50名（小学校1年生～中学3年生）

(4) 創立110周年記念「SYDきらめきメッセージ全国コンクール」(仮称)《文部科学省後援》

あなたが体験したきらめき、ブレイクスルー（壁を乗り越え前進すること）、自分の中の奇跡・・・、そこから生まれた思いや自分へのメッセージを発表します。

応募資格 小学校1年生から満25歳までの青少年

部 門 小学生の部、中学生の部、高校生の部、大学生・青年の部

入賞発表 一次審査会において各部ごとに入選作品2～3点（計10点）を選考し、年内に通知。2月東京で行われる全国大会で発表し、選考・表彰されます。

全国大会 平成28年2月6日（土）

表 彰 最優秀賞1点、優秀賞2～3点他

応募等 ・本事業エントリー用紙または原稿用紙を使用し、題名、学校名、氏名、住所、連絡先、本文（未発表のもの）を横書きで記入する（日本語）。

・本文の文字数は下記のとおり ＊5分以内で発表できるもの

小学生の部 1～3年生：800字以内

4～6年生：1,200字以内

中学生の部 1,200～2,000字

高校生の部 1,200～2,000字

青年（大学生等）の部 1,200～2,000字

＊体験の分野は、ボランティア、自然体験、職場体験、スポーツ、芸術・文化、学校や家庭生活など。

締め切り 11月30日（月）

3. SYD指導者の養成

各種体験活動においてリーダーとして活動している、あるいはリーダーを目指す中学生・高校生・大学生等の青少年を対象に、自然体験や社会奉仕体験などのさまざまな実践活動を実践し、自ら活動の楽しみや喜びを体得するとともに、子どもたちを安全に導きながら体験活動を積極的に推進するための知識や技能を習得し、年間をとおして体験活動を展開するSYD指導者の養成に努める。

(1) 創立110周年記念「全国青年ボランティア・アクション in 福島」

《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

福祉・災害ボランティア活動の心構えや基本的技術を習得し、福祉施設や公共施設、震災地の仮設住宅等での社会奉仕活動を実践する。このことにより社会奉仕体験活動の楽しみや喜びを体得し、ボランティア精神を涵養し、指導者としての資質の向上を図る。

開催数 2回<夏休みと春休み各5泊6日>

開催地 福島県高齢者福祉施設及び被災地仮設住宅（石巻市、名取市、新地町）

スタッフ等 SYD指導者等各5名

対象 将来SYD指導者を目指す中学生及びキャンプリーダー等の青年

募集人員 各30名

その他 事業の充実と効果的なプログラムの実施を図るための全国の代表者からなる企画運営委員会を開催する。

*企画運営委員会の開催

期 日 5月<1泊2日間>

会 場 ばんだいふれあいぴあ（福島）

委 員 10～15名（全国のSYD指導者等に委嘱する）

(2) 創立110周年記念「全国青年ボランティア・フェスティバル」

～より良い未来へのメッセージ～ 《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

青年たちによって創立されたSYDでは、110周年の創立記念を祝し、“青年の手による”未来志向の活動を行う。ボランティア活動や活動の中での気づきや思いを発信する機会として開催し、そこから明るい社会を築くためには、自分に何ができるかを考え、今後の活動の促進を図る。

期 日 平成28年2月6日（土）～7日（日） <1泊2日>

会 場 SYDホール、国立オリンピック記念青少年総合センター

スタッフ等 SYD指導者等5名

対象 全国の青少年および青少年指導者

募集人員 50名

プログラム SYDボランティア奨励賞、きらめきメッセージ全国コンクールの表彰及び活動報告等

報告書の作成 部数 1,000部、体裁 A4版・86頁

その他 事業の充実と効果的なプログラムの実施を図るための全国の代表者からなる企画運営委員会を開催する。

*企画運営委員会の開催

期 日 10月17日（土）～18日（日）<1泊2日>

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター

委 員 10～15名（全国のSYD指導者に委嘱する）

(3) 全国青年チャレンジ富士登山《子どもゆめ基金助成活動》

世界遺産となった日本最高峰である霊峰富士山に登ることで、自然や生命に対する畏敬の念や困難な課題に取り組むチャレンジ精神、互いに励まし合い助け合うことで思いやりの心を育みます。また仲間と共に達成感を体験することで、リーダーとしての資質及び人格の向上を図る。

期 日 7月18日(土)～20日(月・祝) <2泊3日>
会 場 国立中央青年の家
スタッフ 3名(登山ガイド1名、職員2名)
対 象 高校生以上の青年
募集人員 25名

(4) SYD指導者資格認定制度

愛と汗の精神を理解し、自然体験活動や社会奉仕体験活動等を日常的に展開する指導者の養成を目的に、SYDの理念を学ぶSYDアカデミーを実践し、指導者資格証を発行するなど、SYD指導者資格認定制度の運用と充実を図る。

4. 青年組織育成

“愛と汗”の精神に基づいた、自然体験・社会奉仕体験を年間を通して展開する青年部組織の育成・充実に努める。

(1) 創立110周年記念「SYDオールディーズ(OB会)」の開催と結成(仮称)

これまでのSYD活動に関わってきた(OBの)みなさんが一堂に会し、SYDのこれまでの魅力や素晴らしさを再確認し、これからのSYDに貢献できることを考える機会として開催する。

ア. 全国大会

期 日 平成28年2月6日(土)～7日(日) <1泊2日>
スタッフ 4～5名(SYD職員)
会 場 SYDホール及び国立オリンピック記念青少年総合センター
参加者 50名

イ. ブロック集会(地域や事業別)

開催数 全国5会場
スタッフ 各1～2名(SYD職員)
参加者 各10～20名

(2) 青年ボランティアゼミナール《子どもゆめ基金助成活動》

開催数 年8回
講師 各1名(国内外のボランティア経験者等に委嘱)
会 場 SYD会議室
対 象 東京近郊の青年リーダー
募集人員 各20名

(3) 指導者の派遣と青年組織活動への助成

青年部組織の強化・拡大と活動の充実・活性化を図るため、指導者の派遣と組織活動への助成を行う。

ア. 指導者の派遣

派遣回数 10～15回
派遣期間 1日～3泊4日

イ. 青年組織活動への助成

5. 関係機関・団体との協力

青少年教育及び社会教育の関係機関及び諸団体との連携を図り協力し合い、青少年の健全育成ならびに社会教育に寄与する活動を展開する。

II. 国際交流

1. 貧困と共に生きる子どもたち支援活動（サポーターシッププログラム）

(1) 創立110周年記念「フィリピン子ども親善大使招聘事業」

夢や希望を抱き、家族を支え、ゴミ捨て場や路上で働きながら学校に通う子供たちを招聘し、日本の青少年との交流を図り日本文化に触れるなど、彼らの夢の実現に協力し、生きる希望を持つ機会とする。また、日本の青少年が彼らの力強く生きている姿からたくさんの方のことを学ぶことを願って実施する。

期 日 2月の110周年記念大会の前後 <6泊7日>

招聘者数 13名（参加者10名、引率リーダー3名）

*SYD子ども学資支援奨学生及び卒業生の中から現地指導者が選考する。

主な活動 創立110周年記念大会参加、青少年との交流、学校訪問交流、日本文化視察・体験、ホームステイ等

(2) フィリピン指導者派遣事業

ア. 創立110周年記念「青年ボランティア・アクション in フィリピン」

期 日 8月18日（火）～24日（月） <6泊7日>

訪問地 マニラ市、ケソン市 等

スタッフ 2名

参加者 30名（満15歳から25歳までの青少年）

主な活動 マニラ市内のストリートチルドレンやパヤタスのスカベンジャー（ゴミ捨て場で働く子どもたち）とのふれあい活動や支援品や食事の提供などのボランティア活動等を行う。

イ. 創立110周年記念「サポーター・アクション in フィリピン」

貧困と共に生きる子供たちへの支援活動に加わっているサポーター（支援者）や今後支援活動に協力しようとする人たちが、実際にフィリピンのストリートチルドレンやスカベンジャーをしている子どもたちを訪問し、ふれあい活動・支援活動を実施する。また、現地青少年指導者との交流や文化史跡の視察を通して訪問国の理解と友好親善に努める。

期 日 平成28年3月17日（木）～21日（月・祝） <4泊5日間>

訪 問 地 マニラ市、ケソン市 等

ス タ ッ フ 2名

参 加 者 10名（現地の支援をしている人または今後支援しようとする人）

主 な 活 動 マニラ市内のストリートチルドレンやパヤタスのスカベンジャー（ゴミ捨て場で働く子どもたち）とのふれあい活動や支援品や食事の提供などのボランティア活動等を行う。

2. ブラジルとの指導者交流事業

（1）指導者の招聘

ブラジル修養団の推薦する指導者及び青年リーダーを招聘し、伊勢講習会や子ども自然体験キャンプなどの参加・研修することにより、ブラジルで開催される少年少女講習会等で活躍する青少年指導者の養成を図る。

ア. 青年リーダー招聘

期 日 7月中旬～8月中旬 <約21日間>

招 聘 者 青年リーダー 2名

イ. 創立110周年記念「青少年指導者研修」

期 日 平成28年2月 <約21日間>

招 聘 者 青年指導者 2名

（2）SYD講師の派遣

ブラジル修養団の要請に応じて指導者を派遣し、日伯文化協会等と連携しながら開催される少年少女講習会や教育講演会及びブラジル修養団青年指導者研修会等に従事する。

期 日 平成28年1月～2月 <約35日間>

派 遣 者 SYD講師1名

3. 関係機関・団体主催事業への派遣・受入協力

内閣府、国立青少年教育振興機構等が実施する青少年や指導者を対象とした国際交流派遣事業に積極的に参加者の推薦を行うとともに、国内における各種国際交流活動への指導者・青少年の参加を促進する。

Ⅲ. 講習会・講演活動

企業・団体等の社員、または個人を対象に「良き企業人は、良き社会人であれ」をモットーに、「愛と汗」の精神を基本にした健全な価値観を形成し、より良い人格を研くことを目的に開催する。また、受託講習会・セミナーや講演会に講師を派遣し、“愛と汗”の精神の普及に努める。

1. 伊勢講習会

(1) みがく講習会

期 日 4月～平成28年3月 <各3泊4日>
開催数 10回
定 員 各60名

(2) みがく特別講習会

期 日 平成28年2月～3月 <各1泊2日>
開催数 4回
定 員 各100名

(3) 特別講習会

ア. 神嘗祭特別講習会

期 日 ①10月15日～17日<2泊3日>・・初穂曳き・神嘗祭コース
②10月16日～17日<1泊2日>・・神嘗祭コース
定 員 ①+②で120名

イ. 初詣新春の集い

期 日 平成28年1月
定 員 80名

(4) 受託講習会

ア. 3泊4日コース

開催数 2回(12月～平成28年2月)
定 員 各60名
実施予定企業＝東芝テクニカルスクール、豊田自動織機技能専修学園

イ. 1泊2日コース

開催数 10回(通年)
定 員 各20～150名
実施予定団体＝伊勢志摩リハビリテーション専門学校、互気楽会、悠久の伊勢に学ぶ会、伊勢の風を感じる会、いのやま幼稚園、春風塾、神路の社に詣でる会、神話を体感する会、倫理法人会・後継者倫理塾、教師のみそぎ研修会

(5) 一般講習会

開催数 7回(通年)
定 員 各30～50名
実施予定団体＝日本尺八連盟、天風会行修会、志ネットワーク青年塾、ゼルネットワーク西日本、神社本庁総合研究所、3パーセントの会、わもん会

(6) 講演活動

一般企業・青年会議所・PTA・その他各種団体の依頼により講師を派遣する。

2. 関東・東北地区講習会

(1) 新入社員セミナー

学生から社会人への意識変革を図るとともに、“愛と汗”の人づくりを目的としたセミナー。

期 日 4月 <2泊3日>

会 場 福島県下

定 員 70名

(2) リフレッシュセミナー

中堅社員等を対象として、心身をリフレッシュさせ、新たな活力を生むことを目的としたセミナー。

期 日 平成28年2月 <2泊3日>

会 場 福島県下

対 象 18歳以上

定 員 50名

3. 受託セミナー

多様な企業の要望に応えるセミナーを企画し、企業が求める人材育成に貢献する。

実施予定回数 70回

(1) ブラインド・ウォークセミナー

“思いやりの心”“信じ合う心”“感謝の心”の三つの心を体感し、より温もりのある心豊かな人間関係を育むことを目的としたセミナー。

コース：半日、1日

(2) パート社員セミナー

スーパーマーケット等のパートタイム社員を対象に、職場の人間関係をより円滑にするための心のあり方や対人関係スキルの向上を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

(3) 新入社員セミナー

学生から社会人への意識変革を図るとともに、“愛と汗”の人づくりをねらいとしたセミナー。

コース：半日、1日、1泊2日、2泊3日

(4) 一般社員セミナー

一社単独による研修や職場リーダーの育成を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

4. 青少年・社会教育団体等への講師派遣・斡旋

委嘱講師の充実を図り、青少年団体をはじめ学校、諸団体、企業に積極的に働きかけ、講習会・家庭教育講座や人生講座への講師派遣や、レクリエーション、キャンプ等のプログラムを企画立案し、指導者派遣の一層の充実を図る。

IV. 家庭教育活動

1. 家庭力アップ・セミナー

家庭が本来持っている機能や役割を家庭力とし、その力をよりアップ（発揮）させ、幸せな家庭やイキイキとした地域社会をつくることを目指す。セミナーでは、講演とワークショップを通して、家庭でのコミュニケーションを基本とした生き方を見直し、生活習慣の改善を行うための具体的実践を提案する。

実施団体は、修養団の連合会・クラブや幼稚園・保育園等とし、広く参加を呼びかける。

開催数	7会場（標準日程3時間）
期間	通年
参加者	各30～80名
講師	各1～2名（原則、SYD講師）

2. 家庭教育講演会

連合会・クラブが実施団体となり、幼稚園や保育園、小学校・中学校のPTA等と連携して開催し、そのための講師を派遣する。

開催数	5会場
期間	通年
参加者	各30～150名程度
講師	各1名（原則、SYD講師）

3. 親子で楽しむ農業・漁業体験！【新規】〔創立110周年記念モデル事業〕

農業や漁業体験を親と子がともに体験する中で、多くの人や自然に生かされていることを実感しながら、子どもたちの自主性や協調性を育み、親子の絆を深める機会とする。

開催数	4回（農業2回、漁業2回）〈各1泊2日〉
期間	通年
参加者	小中学生とその親（各回20名）
指導者	3名（外部指導者1名を含む）

V. 会員組織活動

1. 「幸せの種まき運動」の推進

会員および会員組織と連携を図り、さらに諸団体に呼びかけて、「愛と汗」を基本に下記事業を展開し、心ひとつにして「幸せの種まき運動」を推進する。

(1) 愛汗実践塾

「愛と汗」を基本とした修養団の理念を学び、「幸せの種まき」を実践するための意識を高める機会として、連合会・クラブを実施団体として研修会方式を用いて各地で開催。会員組織の活性化や後継者育成、会員拡大を図る。

開催数	5会場（標準日程10時～17時）
参加者	各30名程度
講師	各1～2名

(2) 第7回「チャリティー演芸会」 — ストリートチルドレン支援 —

開催日	7月3日（金）
会場	SYDホール

(3) 第12回「平田康子チャリティーJAZZコンサート」 — ストリートチルドレン支援 —

開催日	11月13日（金）
会場	SYDホール

2. 会員組織活動への支援と会員加入促進

会員組織がそれぞれの地域や職域で社会貢献活動(幸せの種まき)をすすめるために、会議を開催するほか講師派遣などの支援を行い、会員加入促進を図る。

(1) 第4回「全国修養団運動推進会議」

各クラブ・連合会の活動を活性化する上で、事業や日常活動の具体的展開について協議するとともに、創立110周年記念大会や記念事業の説明や各会員組織間の情報交換を行う。

開催日 6月6日(土)

会場 SYDホール

参加者 主なクラブ・連合会の代表者またはそれに準ずる人 35名

(2) 講師等の派遣

派遣数 20回程度(随時)

(3) 連合会等主催「皇居勤労奉仕」への支援

実施を支援し、要請によって職員を派遣する。

実施数 2回(各4泊5日)

(4) 『SYDかわらばん<最新活動情報>』の発行・配布

毎月20日(8月を除く)に各1,000~1,200部発行し、各会員組織等に配布する。あわせて、ホームページでも全記事を掲載して広報する。

VI. 幸せの種まき献金活動

1年をとおして募金活動を行い、フィリピンをはじめとする海外の経済的に恵まれない子どもたちや国内外の大災害の被災者、福祉施設等を支援する。

1. 募金活動

会員や諸事業参加者のみならず、機関誌やホームページによる広報活動で広く募金を呼びかけることで、積極的に募金活動を展開する。また、活動報告書やフィリピンの学資支援を受けている子どもたちを紹介するパンフレットを作成配布し、この活動への理解者・協力者を広げることに努める。

2. 支援活動

フィリピンの経済的に恵まれない子どもたちの学資支援をはじめとする支援活動を継続して行うとともに、国内の大災害被災者や福祉施設への支援も行う。支援先や支援方法については、「幸せの種まき献金」委員会で定期的に検討する。

VII. 出版・広報活動

1. 機関誌『向上』『愛』の発行

(1) 『向上』

「幸せの種まき運動」に理解を示す著名人や文筆家に執筆の協力をいただくとともに、修養団の事業や会員組織の活動をわかりやすく紹介して、機関誌にふさわしい誌面作りに努める。

(2) 『愛』

修養団の推進する「幸せの種まき運動」を、特に女性会員や青少年会員にわかりやすく紹介し、家庭力アップに役立つ誌面作りに努める。

2. 平成28年版「日々の力」の制作・販売

題名 「こころ 花咲く」
作者 〈絵・文字〉 福田玉庭（書道家）
販売目標 17,500部（制作17,000部）

3. 教育図書の普及、教材の販売

『人生のことは365日』などの人生書や教育図書、研修教材等の販売に努める。

VIII. 施設運営事業

1. 伊勢研修センター

(1) 施設運営

- ア. 講習会を事業の中心として運営する。
- イ. 施設の有効活用を図る。貸し会場としての受け入れを進める。
- ウ. 施設利用の団体の利用の際に、愛と汗の精神に基づいた本団教育プログラムを取り入れていただくように働きかける。
- エ. 地域の各団体との連携を密にし、各事業を展開していく。

(2) 出版広報活動

- ア. ホームページの充実を図る。センター主催講習会および事業の情報発信と広報に努める。
- イ. 『向上』『愛』誌を通じて活動の報告、広報活動に努める。
- ウ. 各種講習会、青少年育成事業などの発信に各関係団体や新聞等メディアの協力を仰ぐ。
- エ. センター施設のパンフレットの作成を図る。

2. 修養団SYDビル・SYDホール

- ・セミナー、講演会や各種活動の拠点として一層の有効活用を図る。
- ・2階ホール及び16階会議室の利用を促進する。
- ・テナントに対し、快適なオフィス環境を提供するよう適性管理に努める。

3. ばんだいふれあいぴあ

- ・自然体験活動の拠点として、主催事業で利用するとともに諸団体の利用に供し、有効活用に努める。
- ・施設の整備を行い、利用環境の一層の向上を図る。（今年度はセンター棟の塗装修繕工事を実施する予定）

4. 関西会館

- ・テナントに対し、快適・適性な管理に努める。
- ・自己使用スペースを事業活動の関西地域拠点としての有効活用を図る。

IX. 表彰

1. 修養団創立110周年記念「第10回SYDボランティア奨励賞」

都道府県教育委員会、主要市町村教育委員会、キャンプ開催地や参加者のいる小・中学校、高校、大学を中心にSYDボランティア奨励賞・パンフレットを配布、応募を呼びかける。顕著な活動を顕彰することにより、ボランティア活動に対する意識を高揚し、活動への参加を促して青少年の健全育成に寄与する。

(1) SYDボランティア奨励賞(文部科学大臣賞)贈呈式

表彰式 平成28年2月7日(日)

会場 SYDホール

(2) SYDボランティア奨励賞・パンフレット配布

体裁 A4版、2頁、4色刷

部数 18,000部

配布先 18,000ヵ所

2. 平成27年度修養団年次功労者表彰

創立110周年記念表彰と合わせて行う。

X. 創立110周年記念事業の実施(前掲以外)

平成28年2月11日に創立110周年を迎えるに当たり、全国の会員が一堂に会して創立110周年記念大会を開催するほか記念事業を実施し、これを機に「愛と汗」の原点に立ち返り、全国会員および役職員が心ひとつにして「幸せの種まき運動」を強力に推進する。

1. 修養団創立110周年記念大会

開催日 平成28年2月7日(日)

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟大ホール(定員756名)

※祝賀会会場は国際交流棟レセプションホール(定員500名)

2. 記念事業

(1) 図書『蓮沼門三・110の言葉(仮称)』の発行

創立110周年に因み、初代主幹の言葉の中から、勇気と希望を与える110の言葉を厳選して制作・発行する。

体裁 B6変形 128頁

部数 1,500部

XI. 関係機関・団体、教育界との協力・連携活動

青少年教育及び社会教育の関係機関、諸団体並びに各地の教育委員会や学校、教師への積極的アプローチを推進し、連携を図り、協力し合って活動を展開する。